

Question 1

“ 鴨川が繋ぐ二つの道標がある

梅の花を横目に立ち、子に目を向けるべし”

- ヒント
- ① 近くにお越しの際は是非とも『蔵』へ。
丁寧にいれた珈琲をお出しします。
 - ② “鴨川”には実際に水は流れていません。
400年の歴史を持つ町並みには老舗も多く、各々の時代の名残を感じられるかと思います。
 - ③ 少し視線を落としてみると発見があるかもしれません。

解答：

ここでいう鴨川とは、実際に市内を流れる「鴨川」ではなく。
「京都寺町三条のホームズ」の「蔵」があるという寺町京極商店街の地面のモザイクタイルを指します。（鴨川を模したデザインで商店街入り口の看板や商店街HPにも記載）

ふたつの道標とは上記鴨川モザイクタイルの敷かれた商店街の入り口と終点（四条通と三条通り）
付近の地面に1箇所ずつあるコンパス型のしりーフのことを指します。

梅の花とは寺町京極商店街を四条通りから三条通りへ歩いていくと、寺町通りが別の通りと交差する
場所に順番に桜、朝顔、紅葉、椿、梅があしらわれたしりーフが現れてきます。
三条通りと交差する場所のしりーフには梅の花が。

梅の花のしりーフの横にはふたつの道標の内の一方のコンパスのしりーフがあり、そのコンパスの上に
立ち、子の方角（北の方向。コンパスのしりーフはNの文字と共に北を指しています。）を向くと
アニメの世界、小説でも描かれる「蔵」があるとされる場所にたどり着きます。

Question 2

“ 不思議な音が聴こえたんだ。

鳥の声、風の音に交じって微かに響くような

あれは何だったんだろう。”

- ヒント
- ① もみじがとても有名ですが、龍の胎内を歩くような感じが味
わえる建物や庭などの造形も素晴らしいんです。
 - ② 『永観堂』のものは、京都でも随一とも噂される、幻想的
で心が落ち着く音色です。静かに耳を傾けてみてください。
 - ③ 誰もいなければ自ら柄杓を手にとってみてください。

解答：

特典小説に登場する日野恵一さんと共に訪れた「永観堂」
その永観堂境内、龍の胎内のような建物の中、御影堂の廊下を抜け臥龍廊の階段下に
「水琴窟」があります。柄杓で水をかけると水が岩に落ちる不思議な音色が響きます。

Question 3

“ 一月と七月はそれぞれ一つの曜日です。

あなたは何曜日ですか？ ”

これは、ある場所を表しています。

たくさんいらっしゃると思われるのですが、実は全て同じ方の別名なんですよ。

少し簡単かもしれませんが、敷地内は広いのでゆっくりと色々な場所を巡ってみてください。

七不思議というものもあるそうです。

- ヒント
- ① まずは地図にある残りひとつの場所へ。
 - ② 月と曜日をそれぞれ数えてみましょう。
 - ③ ご自分の場所は一つですか？二つですか？

解答：

ヒント①から、パンフレットにある地図をよく見ると、3箇所のポイントが紫色のピンで表示されていることを見つけ出します。

Question1はヒントの①を見れば寺町京極商店街が目的地であることがわかります。

そして2は「永観堂」残る一つは下鴨神社です。

ヒント②から月は十二ヶ月、曜日は七日

下鴨神社の中で12、とクに関連する「言社」があります。

十二支を七つの社に分した言社は二つの干支が配された社が五社、「子」と「午」のみそれぞれ一つの社が割り当てられています。

つまり設問の「1月と7月はそれぞれ一つの曜日」とは、十二ヶ月に十二支を当てはめた場合、一月は「子」七月は「午」に当たり、七つの社の中でこの二つのみ一つの曜日（一つの社）であることから「言社」の事を表しています。

同時に下鴨神社の中で「たくさんいると思われるがすべて同じ方の別名」という言葉もヒントになっており、七社の祭神の名前がそれぞれ現地に記載されているが、すべて大國主命であることから、こちらも「言社」の事を表しています。

